

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

## 令和3年度技術情報第20号（カンキツそうか病）について（送付）

カンキツのそうか病の発生が平年より多く推移しています。前年度発生があった園では発病葉の除去を徹底し、発芽期の防除を行ってください。

なお、本情報は、病害虫防除所ホームページ（[www.jpnp.ne.jp/kagoshima](http://www.jpnp.ne.jp/kagoshima)）にも掲載しています。



## 令和3年度技術情報第20号

1 対象病害虫 カンキツそうか病 *Elsinoe fawcettii* Bitancourt & Jenkins

2 対象作物 カンキツ

3 発生地域 県本土，熊毛地域

## 4 発生状況等

(1) 葉での発生ほ場率は前年4月から高く推移し、8月は8%と平年（4%）よりやや高かった（図1）。

(2) 果実での発生ほ場率も高く推移し、8月は19%と平年（3%）より高かった（図2）。



葉，果実の病斑

## 5 防除上注意すべき事項

病原菌は葉や枝の病斑で越冬し、病斑上にできた胞子が雨水によって運ばれ、新芽に感染する。新芽にできた病斑では新しい胞子が形成され、若葉や幼果に二次伝染を繰り返す。そのため、下記の防除対策を実施する。

(1) 発病葉の除去を徹底し、越冬病斑量を少なくする。

(2) 春葉への感染を抑えるため、発芽期防除を徹底する。

(3) 気象条件により発芽期が早まる場合があるので、生育状況をよく観察し、適期防除に努める。

## 6 参考データ

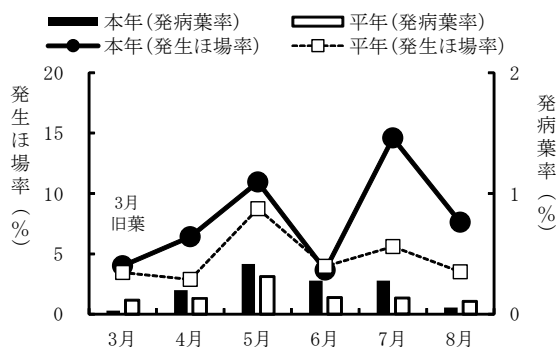


図1 そうか病（葉）の発生ほ場率と発病葉率の推移（県本土・熊毛：R3年）

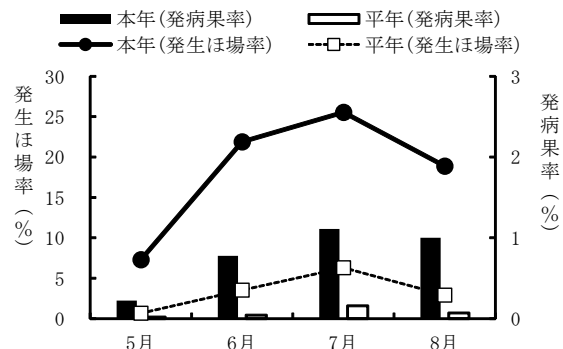


図2 そうか病（果実）の発生ほ場率と発病果率の推移（県本土・熊毛：R3年）